

第4回「第6次ニセコ町総合計画策定審議会」議事録

日 時	2023年12月15日(金) 14:00~16:00
場 所	ニセコ町役場多目的ホール
参加者	委員：新井 和宏 (Zoom 参加)、新谷 典子、瀬戸口 剛、中江 綾、 西澤 純、芳賀 修一、長谷川 博史 (Zoom 参加)、松田 裕子、村上 敦、 レナード トレーシー、若杉 清一 (Zoom 参加) 事務局：片山 健也 町長 黒瀧 敏雄 企画環境課 課長 阿南 孝宏 企画環境課 参事 佐々木 潤 企画環境課 経営企画係長 大野 百恵 企画環境課 経営企画係主査 吉田 智也 企画環境課 経営企画係主事 切通 堅太郎 一般社団法人北海道総合研究調査会 調査部長 野邊 和沙 一般社団法人北海道総合研究調査会 調査部 研究員 ※ほか傍聴1名

1 開会

2 町長挨拶

【町長】

25年くらい前にニセコ町の将来をどうするか皆さんで議論した際、「環境が大事」ということで第2次環境基本計画を策定した。約2年強をかけて、ニセコの景観を含めた環境をどう持続するかを考えてきた。結果として、「水環境のまちニセコ」という目標を掲げた。良い環境を子どもたちに残したい、水を守ることは森を守り、川を守り、暮らしを守り、高齢者や子どもを守ることに繋がると考え、その目標とした。同時に、第4次総合計画では、「小さな世界都市ニセコ」というキーワードが生まれ、世界標準の差別のない都市にしたいという願いを込めた。第5次総合計画は「環境創造都市ニセコ」とし、環境への取組が評価され、内閣府に環境モデル都市に選定いただき、今日に来ている。

合併を検討した平成15(2003)年の税収は5億円代、令和4(2022)年は9億円を超え、今年は10億円の税収が見込まれる。自己財源が増えることはありがたい。都市部の財政力指数は0.6~0.7が通常だが、東京都や愛知県の市町村の多くや長野県軽井沢町、北海道泊村は1.0を超えている。税収が伸びると地方交付税は75%減額されるが、25%の自己財源は増となる。ニセコの財政力指数は平成15年当時0.24だった。24%しか自己財源がなかったのが、今やっと0.32になった。自分たちでお金が多少回せるような自治体に成長している。

ニセコ町はいろいろと課題があり、今年は全15回のまちづくり懇談会を開催した。にこっとBUS(デマンドバス)やタクシーなどが充足されていない。高齢の皆さんが移動したくても病院に行けない、買い物に行けないという実情がある。住宅不足とともに、これらの課題を緊急に解決しなければならない状況に来ている。さらに、今後12年のニセコ町がどうあればいいか。総合計画は皆さんのおかげで熟度があがってきている。皆さんの率直な議論を積み重ねる中から将来像、ありたいまちのキーワードが生まれたいと思っていますので引き続き審議をお願いしたい。

3 事務局からの説明

【会長】

この審議会も第4回を迎え、いろいろな議論をさせていただきありがたいと思っている。今日も美しい雪の羊蹄山が見えて、ニセコの豊かさを来るたびに感じている。そんな豊かなニセコをこの先いかに伸ばしていくかを一緒に検討していきたい。今日は将来像に向けたタイトルを検討したい。

①第3回審議会での議論を踏まえての文言整理

※事務局より説明 資料1

②2035年に向けた5つの目標と

※事務局より説明 資料2

③まちづくり懇談会意見要旨

※事務局より説明 当日配布資料

④基本理念：2035年のニセコ町の目指す姿（案）

※事務局より説明 資料3

4 議事

① 基本理念：2035年のニセコ町の目指す姿

【会長】

資料3について、肝心なのは左側の基本理念と一番左に書かれている基本的な考え方。私としては、大きく3つあると思っている。1つ目は、委員意見にあるように、住みやすさや幸せ。ニセコに住んで心が豊かになるという意見をいただいた。他のまちでも同じような計画に携わっているが、このようなハッピーな意見をいただくことはなかなかない。ニセコの皆さんは豊かな暮らしをされていると感じている。ここを大事にしたいと思う。

2つ目は、環境に対する危惧の意見をいただいた。環境が豊かといってもいつまで続くのか。今のニセコの環境が荒らされていくのではないか。12年後に本当にこの姿であり続けられるかどうかは危惧される。そこを大事に考えないといけない。

3つ目、次の世代にどうやってこの豊かさをつなげていくか、教育を含めてどうするかについて意見をいただいた。

それぞれバラバラではなく関係することであるが、このような観点からご意見をいただきたい。

【委員】

最初にくいつか質問したい。議会への政策案件の説明で議員からのコメントは参考までとのことだが、総合計画は議会の承認をとるときに文言の修正は入るのか。

【事務局】

我々としてはあくまで審議会で議員からそういった意見があった報告し、審議委員からそれを

参考に変えるとあればお願いするということ。

【委員】

「後志エリアで高齢者を一番若者が助けるまち」という子どもに重い責任を負わせる総合計画は反対しなければいけないと思ったので安心した。

目標Ⅰの「ニセコの自然環境を守る」について、議会からも開発はまちが生き残るために必要だという意見が出た。おそらくどんなにニセコ町が自然を守ろうとしても、既に開発の許可が出ている案件はたくさんあるのでそのまま進んでいくと思う。ただ総合計画の気構えとして、ニセコの自然環境を守るというのは、これまでの世界に広げていくというニュアンスから変わったということを示すことになる。ニセコブランドを検討していくのは素晴らしいこと。

資料2で、それぞれの基本目標に対して既存の取組以外に新規の取組を提示いただいた。やめることを決めないで、新規を増やしているが本当にできるのか心配である。

参考資料の計画素案について、これまでの計画は長く書いていたが、今回はシンプルにまとめられていて、ここでの議論がすべて載っていてうれしく思う。

基本理念について、3回目の審議会で話したとおり、第4次、第5次総合計画では世界の中でという立ち位置が多かったが、これだけブランド化されて、世界のニセコが確立しているので、このあたりで住民や基本の産業である農業に注目するような意味合いのある基本理念にするといい。「世界一幸せを感じられるまち」「住みたくなるまち」でもいい。世界一が抜けたとしても、そういった内容がいいと思う。

【委員】

資料説明の中で違和感があったのが、資料2で紐づけている施策について、シンボリックな活動という物言いだった。シンボルであってはいけなく、やりきるという施策にしてほしい。強い計画になるように、大きな課題があり絶対に取り組むという意思を感じるようにしてほしい。

議会の意見でもあったが、当初から総合計画はビジョンを示したものと言っているが、ビジョンだけでは具体的な主要なものをやるという強い計画にならない。強いものにするのか・あいまいなものにするのかというと、私は強いものにするべきと思っている。あいまいなビジョンだけで終わらせるのは如何かと思う。目標は精神論的な話だけでなく、前回の12年の結果がどうだったかを分析し、それを受けてできていないところをしっかりと取り組むということをやらないと、同じ繰り返しになるのではと思う。いろいろなデータを使うと何が問題なのかがわかる。そこに対して的確に的を絞った手を打つ。そうしないと、新規の取組がいっぱいあってやり切れるのかと思う。的を絞ってこれだけはやるという計画にすべきと思う。

全体として住民主体のまちづくりにするのは賛成。ただ、町民だけがやるものでも、行政だけがやるものだけでもない。双方が共同でやるもの、町民が主体でやるもの、行政が主体でやるものがあるので、それぞれやることを示す。これを基に、町の予算60億円の割り振りが決まるので、具体的にお金を使うところと紐づいているべき。

目標Ⅰの「みんなで作るまち」というのは大事だが、当初書かれていた持続可能という言葉がわかりにくいということになった。私は持続可能なまちの一つとして、人口が適切でバランスよく保たれていることが大事と思っている。日本人の人口が減り、外国人が増えているので全体としては増えているが、一番大事なエッセンシャルワーカーの人口が減っているのが深刻な

問題であることが抜けている。気候変動対策についても、議論の中では出ていないが、行政の方からやることをしっかり提案してほしい。

【委員】

基本目標の中で一番やらないといけないのは環境。今すぐ守らないと12年先もない。この環境問題を今すぐ検討してほしい。8～10年検討してやるものではなく、今すぐやらないといけない。新しい開発は止められないが、ゾーニングやルールを作って、環境を大事にすべき。町民が世界一住みやすいところとして、この環境を12年先までの案に沿って検討いただき、環境問題がなくなるまでやってほしい。近藤地区に住んでいるが、新しい工場などが建てられて少しずつ森がなくなっている。6か月後は近郊の森はなくなると危惧している。失った森はもう戻らない。そういうことがいろいろなところで起こっている。この環境を守れば、皆でまちをつくっていきなり、助け合いも将来につながる。目標Vの「ニセコの自然環境を守る」が一番になってほしい。

【委員】

私たちがニセコ町に住みたいと思ったのはなぜか。何が魅力でニセコに住もうと思ったのか。開発はニセコの何が良くて開発する人が増えてきたのか。それはこれまで大事にしてきた環境があるからだと思う。ニセコ町はこれまで環境問題（ごみ処理問題など）で戦ってきた経緯がある。それがあって今のニセコ町の姿がある。水環境も、相当早くから水環境を守ろうといろいろ動いてきた結果がある。今回、総合計画を策定するにあたり、何よりも足元の自然環境が生きる上で一番大事なベースになる。地球環境は温暖化の問題等で逼迫している。そのうえでニセコ町はどのような姿で12年後に進んでいくのか。何を子どもに残すのか。自然環境を守ることをベースにして、農業、産業、経済が進んでいくと思っている。

【委員】

前回の審議会の中で、最優先は環境であるという認識である。その中で危惧していることは、資料2の中で環境が5番目である意図があるのか。それよりも重要なことは、目標Vの中に環境と開発、環境と経済が対立構造になりがちという記載が環境側にある。それに対して、目標IIIの経済には環境の記載がないのは違和感がある。経済を変えていかないと対立軸は変わらない。共通価値を見出すことができていないのではないのか。共通価値を見出せるような経済をどのようにデザインするかが求められていると考えている。基本的に目標IIIの「ニセコの経済を循環させる」という文言の中で、地域内の商品・サービスを循環させる視点、もう一つはインバウンドと住民の二重価格の問題をどう解決するかが重要。それとともに、循環という意味で、地域の環境をよりよくする企業のために経済活動がしやすい状態を作るのが重要。森を豊かにするものに対して、何を加点させるのか、もしくは切った分の木と同じだけの木を植えるなど自然が戻るような条例にする。社会全体として買った方が安いという認識が広がっているが、リペア（修理）するもの、アップサイクル¹のようなものに対して評価をあげるのも本来あっていい。同様に、人材育成の中に環境教育をどう体系立てて入れるのか。環境というテーマをすべての基本目標に入れないと違和感がある。

【会長】

¹ アップサイクルとは、廃棄予定であったものに手を加え、価値をつけて新しい製品へと生まれ変わらせる手法。別名「クリエイティブ・リユース（創造的再利用）」とも呼ばれている。

経済と環境は、ニセコ町だけではなくいろいろなところで議論されているが、そこをどうやってつなげていくかが課題。環境を保全すること自体が経済活動になるという方向性をここでも出していけたらいい。さらに環境は教育や人材育成の話につながっていく。

【委員】

皆さんの意見を射た意見で共感できる。教育と環境をつなげるという意味で、子どもたちにニセコの自然の中で自然の素晴らしさを体感させないと、環境を守ろうとしてもフレーズだけになる。動こうという気持ちが子どもの心の中にわいてこない。自然の中で生きているニセコの子どもたちと札幌の子どもたちを比べてもさほど遊び方は変わらない。冬になれば家の中でゲームをしている。テレビ画面やPC、タブレットと向き合う時間が長いのは都会の子どもたちと同じ。その環境にいる限り、自然の大切さは実感できない。外的な力で子どもを外に出してあげる環境をニセコ町で整えることができればいい。いろいろなイベントをやっているが、まだまだ子どもたちが自ら外に出るところまではいっていないし、活動へ参加するメンバーは毎回同じになっている。環境教育は施策に入っているが、もう少し幅広く学校全体で取り組んだり、誰もが体験できるような環境を保障したりするといい。スキーやアウトドアも盛んだが、やる家庭・やらない家庭がはっきりしている。

ニセコのまちなかを車で走ると農地がたくさん見える。農地は夏になると青々として綺麗だが、これが守りたい自然環境なのか。子どもたちに話す自然環境には農地も含まれるのか。国営の基盤整備で子どもたちが遊べる水路がなくなっている。基盤整備後は水路がコンクリートで固められて危険なので遊べない。農地に植物が植えられて自然と調和したものに見えるが、実はそこに建物が建っているのと変わらない。そう感じている保護者はたくさんいると思う。農地が大きくなり、きれいに整備されることが自然環境を守ることとイコールにならない。

【委員】

農家としては平らになっている方が使いやすいし、収量も上がる。面積が広がると機械が入られるのでさらに広くしている。農地整備に対して町民がそう思っていると初めて知った。

【会長】

日本の食料生産が一番大事なこと。作物が育っているところを子どもに見せるのもいい。ぜひ農業体験をしてほしい。

【委員】

総合計画の基本理念をまとめるのは、どうしても絞り切ることなので大変だと思う。12年間という長く、私には5～6年後しか想像できないが、生まれた子が中学生になる。5～6年で何をすることが町民にとってわかりやすければいい。

ニセコの良さを私なりに考えると、有島武郎の精神をもっと打ち出すことが、人づくり、行政、まちづくりの柱になると思う。ウィンタースポーツをきっかけに外国人がきて、投資や開発など仕事生まれるのがニセコの魅力。作り出すことと、失わないことの両面を同時にやらないといけない。どちらかを選ぶと分断が生まれる。環境と開発のどちらかをとるということをやってはいけない。よりよい両立が大事。総合計画の分野は医療・教育・福祉・交通など多岐にわたる。総合計画の基本理念は何かというと、ニセコの良さを徹底的に守ること。元々持っているから打ち出せるし、ニセコだから打ち出せる。総合計画だから羅列するのは当たり前。デマンド交通や人

手不足にしても、不満、不足、不自由という“不”がたくさんある。それをなくすのは、今ある良きを守ることで担保できる。ニセコの自然環境を徹底的に守るということをもっと前に出すべき。そのことによって、失うものが少なくなる。結果、少しずつ今よりもよりよくなるというのが町民にとってわかりやすくなる。「皆でやろう」「助け合う」「経済を循環させる」ことはどこのまちでもやっている。環境が売り物ということにニセコの総合計画の大きな柱にすることによって、財源になり、雇用や需要を生み出すことにつながる。開発によって投資も生まれ、固定資産税の増加も図れる。基本理念に今の持っている良きを守り切ることが財産になる、未来につながるということを謳ってほしい。

【委員】

まちの発展と景観の保護は本審議会でも議論しているが、開発は止められないし、仕方ないところもある。ただセンスのいい建物も多いので、開発されることでまちの景観が良くなったり、美的センスが上がったりすることもある。人口が増えていくといい。人口が増えないと、税収も増えないし、まちをつくることも具体的には難しい。例えば、寿都町には通年の温水プールがあるが、羊蹄山麓エリアには通年で入れるプールがない。子どもも大人も使える運動ができるようなジムができてほしい。今回決めるビジョンを人が聞いて「住みたい」と思ってくれるような、開発をすることで町民が恩恵を受けられることを盛り込むことで、皆が Win-Win になれる形がいい。シンプルでわかりやすく、ビジョン自体が人を引っ張っていけるようなもの。小学生でもわかるようなものもいい。

【委員】

皆さんおっしゃる通り。何で住んでいるかという美しい景色。いつも美しさに惹かれている。美しい自然環境を守り、その中で幸せに暮らせるようなまちだといい。美しい自然環境というのは、農地も整備されているからきれいだと思う。荒れ地がきれいだとは思わない。全体的な美しさは、ある程度人の手が入るからこそ農地も含めて美しいのだと思う。66号線からの羊蹄山の眺めがいいところに建物が建って残念に思う。広さを感じて美しさを感じる景観は一番に守ってほしい。そこで幸せを感じて暮らせたらいい。

【会長】

第2回審議会でも白い建物についてのご意見があった。私もニセコらしくないと思う。美しい前提となっているのが自然であり、そこを大事にしたい。

【委員】

私も環境がどんどん変わり、森が10年経たないうちになくなるのではないと思う。今、白い建物の上が開発されており、ホテルが建つ予定。浸透枳を使うという話だったが、それができなくなり農業用水に排水を流したいと相談に来た。断れず、数値を測ってもらい、基準以内に収まれば流してよいとした。新型コロナウイルスの移動制限が終わり、比羅夫にも人が相当来ていて、今後はニセコにもそういう建物がさらに建つのかなと思う。皆さんが言う通り、自然を守ることを一番に考えないといけない。

【委員】

民俗学者・農村指導者である宮本常一は「自然は寂しい、しかし人の手が加わると暖かくなる」という言葉を残している。私は適度に人が出入りしたものの、生活感や人が働いていることがわか

るような手の入り方はいいと思う。農地で人が働いて、そこでものを作っているといった生活に根差したものは大事だと思う。それよりも無機質な建物が建つことが良くないと思う。倶知安町の百年の森で、馬搬の手伝いをした。なるべく森を傷つけないよう、馬などと共存し自然を守りながら林業を生業にする人で、子供たちを集めて馬橋をしたり、釣りをしたり、木を伐るところを見てもらったり、教育の一つとなるような取組をしている。経済と自然環境を守るという活動になっている。なるべくそのような環境がニセコでもあってほしい。憩える森で皆が集ったり、教育ができたりする森があるといい。そこはある程度手を入れた森であればいい。

【委員】

農地開発のことについて、皆さんが同じ思いであると思うが、大きなダンプを見るとどんな開発が始まるのかと不安になる。それが農地開発であれば、農業をするとわかって安堵する。

【会長】

農地である限り、新しい開発はされない。農地を守るというのはそういうことでもある。大体コンセンサスが取れてきたと思う。ニセコの環境を守っていくのは、皆さん意見がまとまってきたことと思う。それと子どもの教育が大事だと思う。北海道大学の学生は、卒業すると8割以上は東京に行って帰ってこない。ニセコ町を出た子どもたちがニセコに帰ってきてくれるようなところになってほしい。環境を守るにしても、次の世代に伝えたいし、残していきたい。総合計画は12年なので、今小学校を出た子どもたちが就職する世代になる。その子どもたちがニセコにいてくれるだろうか。そういうニセコをつくっていきたい。それが経済を回すことになる。経済の回し方は、新井委員が言われたように、環境を守ることによって経済を作り出すことを取り組めればいい。「守る」という話があったが、守ることから一歩出て、次の世代に残していくことも考えていきたい。

【委員】

本審議会委員の平均年齢は50歳以上だと思うが、次は高校から20代のもっと若い世代、これから20年ここで住む人が参加できるような総合計画の審議会であればいい。私たちは私たちの考え方である程度やってきているが、若者は私たちとかなり違う見方になると思う。その意見を聞きたい。

【課長】

子ども向けワークショップも実施した。小学生から高校生の中でも自然環境についての声が多かった。その他、公共交通や買い物ができる大きな店があるといいという意見があった。

【委員】

皆でまちをつくるということで、審議会と一緒に参加できるといい。

【委員】

子どもたちが帰って来られるようなまちという話だが、北海道大学の学生でさえ東京に行ったら帰ってこないのに、ニセコの子どもは帰って来られない。ニセコには観光か農業、建設業しかなく、自分が勉強したことを活かせる産業がない。勉強をしたらやはり札幌や東京に行く。戻ってきて自分のスキルを活かして働く場がない。あとは起業するしかない。

【会長】

これからはどこに住んでも仕事ができる時代ではないか。

【委員】

それは職業によると思う。

【会長】

基本理念を決めたい。皆さんの意見としては、「環境を守っていく」「次に残していく」「伝えていく」という基本的な理念は共有できてきた。あとは文言の問題になる。

【委員】

基本目標が1～5の順で並んでいるのは、「環境」が土台なので5は足元、「皆でまちをつくる」が理念なので1の頭にあたる。助け合いがハートで、経済と安心・安全が右手・左手という形だと思うが、素案の中にその図が入っていない。なぜ環境が5番目になっているかがわかりにくい。この順番で果たしていいのか、それとも図を強調することで5番目を強く見せるのか。図が前提だとわかるといい。

【会長】

「環境」が5番目だと説明しなければ誤解される。「環境」を1番目にする。

【町長】

計画名に「基本」と入れている計画はないが、環境は大事であることから、環境だけは「環境基本計画」とした。今の日本の法律の中で自治体が戦えるかは財産権が関係していて厳しい面もあるが、ガイドラインを作ったりしてしっかり守っていききたい。住むことが誇りに思えるまちづくりというのは、約30年前に決まり、そこから「小さな世界都市」という世界の誰が来ても差別のない、人間の尊厳を守る世界標準のまちにしようとした。その後、水環境を守るため「環境創造都市」とした。これからも理念は生きていくと思うが、私たちがどういうまちで、どういう人生を送っていききたいかという、世界では資本原理主義でお金が優先されている中、子どもたちがどうやって暮らすことが豊かになるか、ニセコが将来こうありたいということを議論したい。昔の計画期間は10年だったが、12年になった。長期総合計画は作らなければならないということではない。皆さんの意見で6年にしようというのは自由。自由な議論の中からある程度意見を集約できればいい。

【会長】

文言・キーワードについて意見をいただきたい。「自然」「守る」「伝える」「次世代」「子ども」もキーワードになる。

【委員】

自然環境を守って進化していく。

【委員】

今ある自然を守り育て、未来の子どもたちに伝えていこう。

【中江委員】

前回出たハーモニーという言葉は美しい言葉だと思っている。人と自然の調和というニュアンスとして、ハーモニーという言葉を入れてもいい。

【会長】

ハーモニーはいい言葉だと思う。ただ、今回の議論はもっと強い、守ろうという気持ちを伝えたい。ハーモニー以上だと感じている。ハーモニーでは誤解され、利用されてしまう懸念がある。

【委員】

ハーモニーはすごく美しい言葉だが、もう少し強く守りたい。

【会長】

皆さんの議論の中で、自然環境に対し本当に危機感がある。

【委員】

「美しい」を入れたい。例えば美しいニセコ。本当に綺麗だから美しいニセコをアピールしたい。

【委員】

ニセコ町は瞬発力がない。実際にこの計画が叶っていくのは何年後にうなるのか。いろんな計画を立てても施策が消えていくか、やれてない状態。スポーツ施設の充実やスケートボードパークの計画は動いていない。守ることもそうだが、行動力的なところも入れられたらいい。

【会長】

そこは役場の能力に期待したい。

【委員】

外国のあたりまえがニセコのあたりまえになり、暮らしにくくなっている。全体的に価格が高くなっている。近所の温泉が500円で入れて憩いのも場だったのが、今年から1,500円に値上げした。ニセコ価格ができて、地元の人暮らしにくくなっている。私も宿を経営していて、毎年100~200円上げることに悩んでいるが、スキー場ではリフト券が8,000円と聞いて驚いた。仕事もしにくくなっている。もっと暮らしやすいまちになってほしい。

【委員】

近隣に住んでいる人が町内のスーパーに行って、ウニが一折5万円で売っていたという話を聞いた。何もかもが富裕層価格になり住めないと話していた。長く住んでいる人は切実に感じている。リフト代も上がり、日帰り温泉も1500円となったなど驚く。価格高騰が起こっている。

キーワードとしては、将来世代という意味合いを入れたい。将来世代という言葉ではなく、いつまでも続いてほしい、いつまでもというわかりやすい言葉にしたい。

【会長】

「子ども」は大事なキーワードだと思っている。

【委員】

「子ども」を入れると「高齢者」が入っていないと言われる。

【委員】

子どもは入れた方がいい。未来のために活動する。どうしても自分たち中心のアプローチになるが、未来が入る言葉がいい。ニセコに引っ越してから「美しい」という言葉を言っているので、美しさは重要、暮らしやすさも重要。これを何とかいい言葉にまとめられればいい。

【委員】

きれいなまち、美しいまちは大事。そういうものを大事にするまちであってほしい。風と土のような、運ばれてくる風とずっとそこに居続ける人たちの交わるまちとしてあり続けてほしい。より良く多様に、すべてがより良くなればいい。自然も何もしなくて守れるわけがない。徹底して守るといような強いフレーズになるといい。

【委員】

一つの問題にフォーカスした言葉なのか、大きな方向性の言葉にするか。ゴールがはっきりわかることが大事。言葉には力がある。そのビジョンを口にしたときに町民も誇りを持ったり元気付けられたり、ニセコに興味のある人がビジョンをみた時に魅力に思ってもらえる言葉にする。シンプルでわかりやすく、かつ力が湧いてくるような言葉にしたい。

【委員】

美しいニセコを未来の子どもたちのために。

【会長】

「環境」にするか「美しい」にするか。「次世代」よりは「子ども」の方が伝わるので「子ども」とするか。あとは「守ろう」「伝えよう」「残そう」といった言葉になるか。

「環境」「美しい」「子ども」「守る」「住みやすい」等のキーワードを使い、委員の皆さんと事務局に案を作ってもらい、次回基本理念を決定する。

これまでの基本理念とはギアが変わってくる。今までは「世界一」というような言葉がついていたが、もっと足元を見る。子どもたちのためということが大事になってくる。

【委員】

子どもたちが帰ってくるには豊かな心を持っていないとニセコの良さにも気付いてもらえない。

【事務局】

次回は各審議委員から事務局に基本理念の案を提出いただき、まとめたものを事前に各委員にお送りする。そこから検討してきてほしい。

【会長】

報告書には事務局でデータを入れてもらいたい。人口もそうだが開発データもいろいろある。それらを入れてもらい、意味がわかるようにしてほしい。計画としての説得力が増すと思う。

【委員】

未来の子供たちがずっと住みたくなる、美しい自然と生きる町ニセコ

【委員】

町民の価格とそうでない人の価格について聞きたい。インバウンドが増えているので、洞爺湖町も町民と町外の人2種類の値段を導入している。町民にとってはマイナスがない。税金はあがるが、町外の人のお金が入ってくる。ニセコ町がなぜ導入していないかわからない。宿泊税よりもシンプルなお金が入ってくる。

【委員】

12年前からずっと言われてきたことが実現できていない実態がある。そういうのがどうしたら実現できるか。環境問題は待ったなしで、いかに早くやるかを議論しないと。理念は大事だが、皆を引っ張って実現する段階で足踏みして実現していない。集う場所も、スポーツ施設もできていない。そのためにどういうしかけをしていくか議論をする必要がある。

【会長】

基本理念が決まったらその部分を議論してはどうか。いろいろなことを話し合う時間も取れると思う。

【委員】

役場主体で動くのか、住民主体で動くのかが大事。役場主体でないと住民が動かないようではいけない時代にある。住民がいろいろな意見を出して、役場を動かすところまで進んでいかないと難しい。「お願いします」ではなく「私も動きます」が必要。他の人も一緒に動いて、役場に対して「こうやっているから役場も協力して」という形まで作っていかないと、全てを行政に任せるとは住民の盛り上がりには欠ける。住民がつくるまちづくりが主体なので、そこからスタートしていくような考え方を持てば変わってくる。

【委員】

若い人達でいろいろ考えて動いている人はたくさんいる。そういう新しい挑戦に対し、役場は成功してからでないとバックアップしてくれない。そのため、挑戦する人はすべて自分でやらないといけないと思っている。町には頼らないという考えの人がたくさんいるのが残念。本来はもっと協力し合って実現できるといい。

【委員】

そのやりとりがうまくできるといい。

【委員】

いろいろやろうとしている人はいるが、それが町全体で機能するまでには至っていないものもある。住民主体で動いていくものと、役場主体で動いていくものは役割が違うので別だと思う。両方が機能しないと車の両輪として動かない。住民主体の活動はボランティアで動かざるを得ない。自治というならそれに予算をつけてほしい。あそぶっくの活動などに予算を付けるなど、住民自身が動けるように予算をつけることまでしないと、人が代わった時にボランティアでできないこともありうる。それがどうやったらうまく機能していくのか考えてほしい。

【会長】

自治体によってはまちづくり会社をつくっているところもある。いろいろな議論があることが大事。今後も続けていきたい。

【委員】

川崎市では、公設民営型で民と公が一緒になって子どもたちの居場所づくり、フリースペースを作っている。そこにいくと学校に行っていない子ども学校に行っている扱いになる。それぐらい協力し合える、一緒にやる取組があるといい。

⑤次回の審議会（日程・内容）、今後の流れ

※事務局より説明 資料3

【事務局】

最後の第5回審議会は2月9日までに実施する。2月9日から2月25日までパブリックコメントの募集期間、2月13日のまちづくり町民講座で改めてパブリックコメントを周知する。3月1日に審議会ですとまとめた意見を片山町長に答申し、3月の議会で承認を得る流れを考えている。

5 閉会

以上